

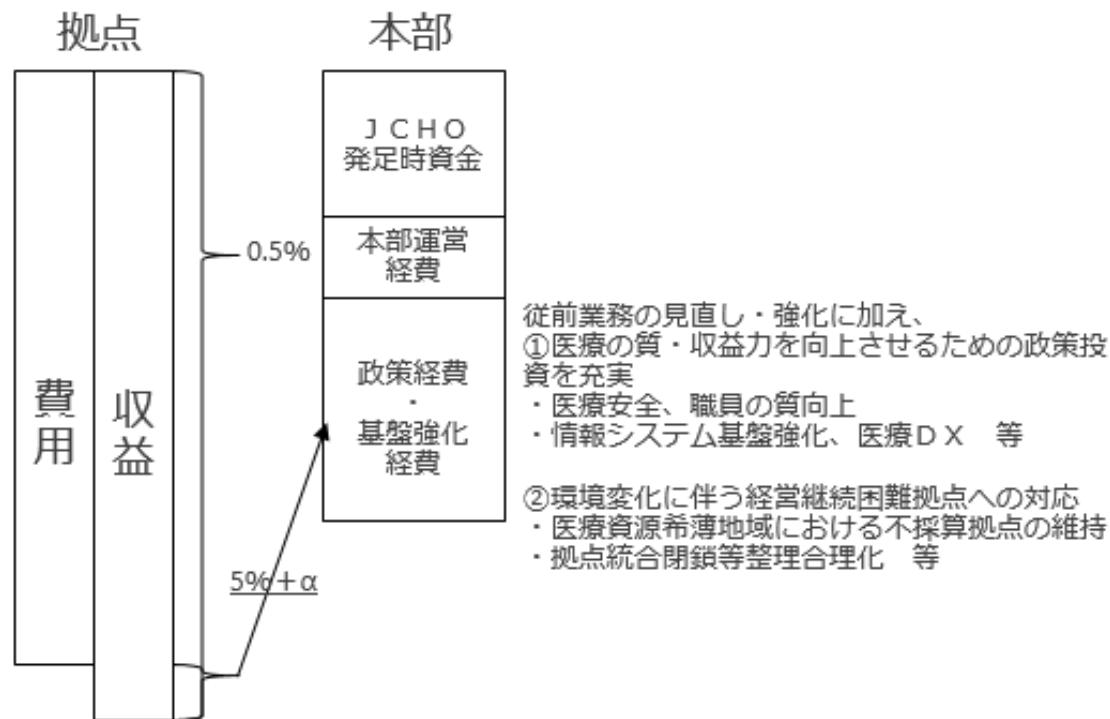
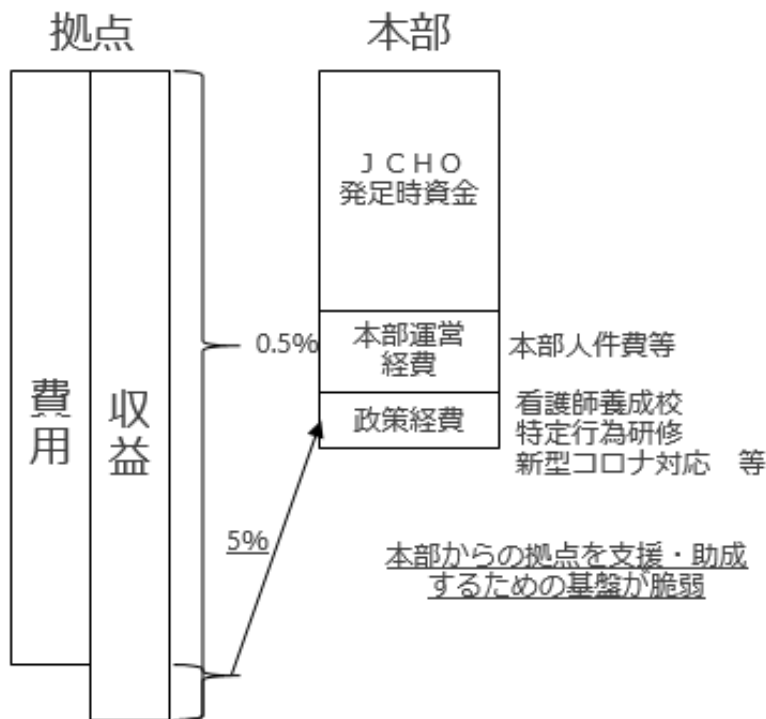
第三期計画期間の法人全体の財政フレーム整理

第三期計画期間の法人全体の財政フレーム整理

第二期計画期間まで
(経常収支40億円/年が実力ベース)



第三期計画期間から
(コロナ後の受療行動変化による厳しい経営環境)
(地域医療構想の再始動・本格化)



第三期計画期間の法人全体の財政フレーム整理

1. 課題

(1) 今後の予想される展開

- コロナ補助金収益により、資金増強が進んだが、患者受療構造の変化により医業収益は急激に悪化中。
- 施設投資等について、現在は外部借入に頼らず内部資金融通により実施しているが、収支状況の悪化、国庫前倒し返納（324 億円）、施設老朽化による建替整備等のため、第三期計画期間中に、財政融資資金等の外部資金導入が避けられない状況。
- 現下の厳しい状況の中で黒字を達成している拠点がある一方、患者数減等により赤字状況から脱せない、乃至施設老朽化の建替え資金確保が困難な経営継続拠点が存在。

(2) 本部の脆弱な財政力

- 拠点毎の「自収自弁」による経営が基本であり、本部事業実施の財政基盤は、JCHO発足時の資金（現在減少中）のほか、本部・地区事務所の人件費や情報システム基盤の共通経費等に充てるための各拠点からの運営費負担金（経常収益0.5%）等に限定されており、本部からの拠点を支援・助成するための基盤が脆弱。

(3) 解決の方向性

- 法人全体としての収益力を向上させる資金環境を整えるとともに、存続拠点到に経営資源を集中させる。

2. 準備項目

(1) 政策投資・基盤強化基金の設置

- 医療の質・収益力を向上させるための政策投資を充実させるとともに、医療資源希薄地域における不採算拠点の維持等のための支出を検討。
- 財源は本部資金を集約するほか、拠点からの拠出金により運営する。

(2) 経営継続困難病院の在り方検討・決定

- 経営強化集中期間（令和5年度及び6年度）の分類I拠点（14病院）に対する集中経営指導を行う。
- 黒字転換が困難な拠点について、統合・廃止又は赤字存続に分類する。